

教科(科目)	家庭	総時数	35時間	学年(コース)	1学年
使用教科書	東京書籍『新編 新しい技術・家庭 家庭分野』				
副教材等	明治図書『技術・家庭総合ノート 家庭分野』				

1 学習目標

実践的・体験的な学習活動をとおして、一人の生活者としての基礎的な知識と技術を身に付けさせる。また、自分の家庭生活や地域の生活に深い関心を持ち、課題をもって生活を改善充実しようとする能力と、積極的な態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 衣生活では、衣服の働きについて理解し、目的に応じて適切な選択ができるようにする。
- ② 被服実習では、計画を立てて製作できるようにする。
- ③ 保育では、自分の成長と家族の関わり、特に幼児が育つ環境としての家族の役割を考えることができるようにする。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	私たちの衣生活	衣服の働き	衣服の社会生活上の働きを理解する。	2	授業の取組
5		自分らしい着方	色のもつ印象や T.P.O. に合わせたコーディネートを考える。	3	授業の取組
6		計画的な活用方法 被服製作	衣服計画をたて、リメイクなどの活用法を考える。 ミシンの使いかたを理解し、安全に使用できるようにする。	2 10	授業の取組 作品
7					
8					
9		衣服の選択	既製服の表示を知り、必要な衣服を選択できるようにする。	3	授業の取組 定期テスト
10		衣服の手入れ	適切な取扱いを知り、手入れと補修の方法を知る。	3	授業の取組
11	私たちの成長と家族・地域	幼児の心身の発達	幼児期の心身の特徴を知る。 幼児期に適した食生活や衣生活を知る。	3	授業の取組 視聴覚学習
12		幼児の生活習慣	基本的な生活習慣と社会的な生活習慣を知る。	2	授業の取組
1		幼児の生活と遊び	幼児期の遊びの大切さを知り、その意義に気づく。	3	授業の取組
2		子どもにとっての家族	子どもを育てる環境としての家族の役割を理解する。	2	授業の取組 視聴覚学習
3		子どもの福祉	さまざまな子育ての場や子どもを守る法律や条約があることを知る。	2	定期テスト

計35時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

・作品 ・視聴覚学習によるプリント

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
(主体的に学習に取り組む態度)	(思考・判断・表現)	(知識・技能)
衣食住や家族の生活などに関心を持ち、これからの家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしている。	衣食住や家族の生活などを見直し、課題を見つけ、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫している。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組 ・作品、プリントなどの提出物 ・定期テスト などから、総合的に評価します。		

6 担当者からの一言

小学校で学んできたことをふまえ、自分自身や家族の生活についてより考えていきましょう。
前期課程では、「衣生活」と「保育」の分野について学びます。
被服製作での作品は、秋燕祭へ出品します。

(担当：倉茂)